

道路整備や交通安全環境の整備による児童・生徒等の安全歩行空間確保計画 (事業区分: 道路 (交通安全))

1. 長野県の現状と課題

【現状】

長野県における道路管理延長は5,151km(県管理道路)あり、このうち歩道等設置延長は1,695kmある。また、法定通学路の延長は、県管理道路で1,174km、市町村道で1,107kmある。このうち、歩道等整備率は、県管理道路で52%、市町村道で32%となっており、いずれも全国平均を下回っている状況である。

【課題】

法定通学路に指定されているものの歩道が未整備の箇所や、交通事故の多い危険箇所等があり、通学児童・生徒を交通事故から守る必要のある道路が多くある。こうした箇所では、安全な歩行空間を確保するため、歩道等の整備が求められている。



2. 計画の目標

児童・生徒が利用する歩道等の道路整備と併せて交通安全を向上させる環境整備・施策を実施し、安全歩行空間を創出する。

3. 事業の内容

【計画の期間】平成21年度～平成25年度(5年間)

【事業実施主体】長野県他39市町村

【計画の成果目標】

計画の成果目標	H21(現況値)	H25(目標値)
通学路等の安全空間確保率 ※	0%	100%
通学路等の安全歩行空間を確保する箇所	0箇所	233箇所

※ Σ (対象ルートのうち歩道が整備され安全通行可能な延長) / Σ (通学路等改善必要ルートの全延長)

※ 通学路等の安全空間確保率は、平成21年度計画策定時に安全歩行空間を確保するために事業計画した延長をもとに算定しており、平成21年度現況値は事業未実施のため0%とし、平成25年度に100%を目指した成果目標としている。

【事業の主な内容】

基幹事業 : 歩道・自歩道整備事業148箇所、交差点改良事業12箇所
 防護柵整備事業20箇所、道路情報板整備事業13箇所
 関連事業 : 標識整備事業1箇所
 効果促進事業: 交通安全活動支援事業6箇所、防犯灯設置事業13箇所

【箇所数と事業費】

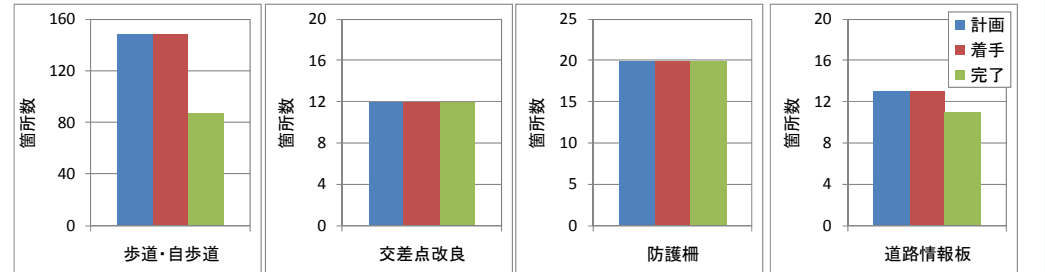
	県	市町村	計
基幹事業	106箇所 131.4 億円	103箇所 113.4億円	209箇所 244.8億円
関連社会資本整備事業	1箇所 0.3 億円		1箇所 0.3 億円
効果促進事業	4箇所 0.1 億円	24箇所 1.3 億円	28箇所 1.4 億円
計	110箇所 131.8億円	127箇所 114.7億円	237箇所 246.5億円

※事業費は精算額としているため、整備計画の事業費とは合わない場合があります

4. 事後評価の結果

【目標値の達成状況】

計画の成果目標	H25(目標値)	H25(実績値)
通学路等の安全空間確保率	100%	89%
通学路等の安全歩行空間を確保する箇所	233箇所	209箇所



【長野県管理道路の歩道延長】

	H21(現況値)	H25(実績値)	整備延長
歩道の延長(km)	1,713	1,756	43

■事業効果の発現状況

・歩道・自歩道整備について、計画した148箇所全ての箇所で着手した。87箇所で完了し児童・生徒等の安全歩行空間を確保できた。(事例①、②))
 ・歩道の設置や交差点改良等の整備により、交通安全対策が進み、長野県内の歩行者事故数は、平成21年の992件に対し、平成26年は960件と減少した。

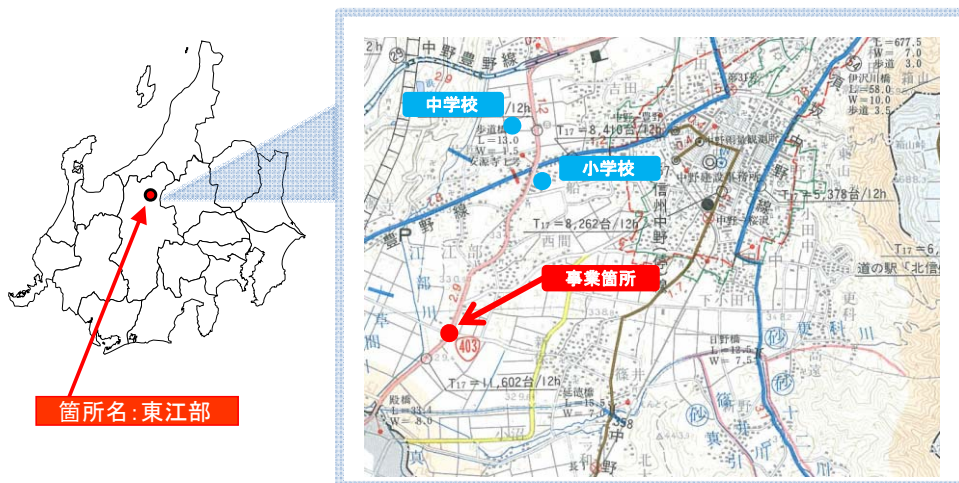
5. 評価と今後の方針

・歩行者の事故数が減少するなど、整備の推進により、歩行者の安全歩行空間の確保に寄与した。
 ・平成24年度の通学路緊急合同点検結果をうけて整備計画を見直し、要対策箇所を24箇所新規着手した。
 ・今後は平成24年の通学路緊急合同点検や通学路交通安全プログラムによって抽出された要対策箇所において、安全歩行空間を確保するための整備事業を着実に進め、歩行者の交通安全対策を推進する。

整備効果事例

事例① 交通安全事業 (国)403号 中野市 東江部

■ 位置図



箇所名: 東江部

■ 整備効果

整備前



児童・生徒等は路肩を通行しており、危険な状況

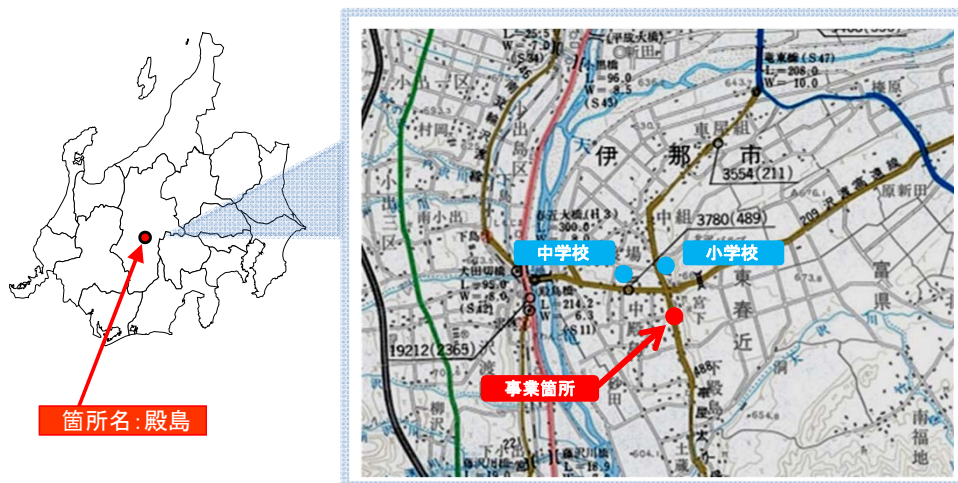
整備後



歩道整備により、児童・生徒等の安全歩行空間を確保

事例② 交通安全事業 (一)車屋大久保線 伊那市 殿島

■ 位置図



箇所名: 殿島

■ 整備効果

整備前



道幅が狭く、車両、自転車、歩行者が混在し危険な状況

整備後



歩道が確保され、歩行者の安全を確保

通学路に指定され、児童に利用されるようになった。通学路は500m短縮。